

# 英国の Special School における Snoezelen の教育実践に関する調査研究

— Snoezelen の概念をめぐる —

姉 崎 弘

## An Investigation Research on Educational Practice for Snoezelen in Special Schools in England

Hiroshi ANEZAKI

### 要 旨

英国で、スヌーズレンを実践している Special School 3 校を対象に、インタビュー調査と学校施設の見学を行った。その結果、各校にはスヌーズレンの「ソフトプレイ・ルーム」と「ホワイト・ルーム」が設置され、スヌーズレンの実践に際して、IEP を作成し、スヌーズレンにおける個々の子どもの目標の設定と計画の立案がなされていた。またスヌーズレンの効果として、自閉症児などへのリラクゼーション効果やコミュニケーションにおける相互交渉の促進などが報告された。調査の結果、スヌーズレンは学校の教育活動の一環として位置づけられ、レジャーとして楽しむだけでなく、セラピーや教育としての側面も併せ持つことが考察され、筆者の先行研究の結果が支持された。日本スヌーズレン協会では、スヌーズレンをセラピーや教育としては認めない立場をとっているが、今後わが国におけるスヌーズレンの概念の見直しが急務であると考えられた。

### 1 はじめに

Snoezelen (スヌーズレン) は、1970 年代にオランダで始められた障害児者への新しい関わり方の理念<sup>1)</sup>である。スヌーズレンは、人間の五感を優しく刺激する視覚刺激や聴覚刺激、嗅覚刺激等を用いた多重感覚刺激環境 (Multi-Sensory Environment) を創出して、リラクゼーションや興味を促し、障害のある人とともに充実した時間を過ごすという関わり方の理念とその場の提供といえる<sup>2)</sup>。

英国では、1990 年代に入ってからスヌーズレンに関する実践や研究が盛んに行われるようになった<sup>3) 4)</sup>。そして今日では、オランダをしのぐ 3,000 箇所以上の大小のスヌーズレン・ルーム等が創設されており、病院や Special School、施設のデイサービスなどで、知的障害児者や自閉症児者、重度・重複障害児者、認知症者および精神障害者などに幅広く適用され効果をあげている<sup>5)</sup>。

筆者は先行研究において、スヌーズレンには、福祉における余暇活動、いわゆるレジャーの他に、セラピーや教育としての側面もあり有効であることを指摘して

いる<sup>6)</sup>。特に筆者は、わが国の学校教育において、スヌーズレンを自立活動や遊び学習 (特別支援学校の教育課程に位置づけられる領域等)、さらにクラブ活動の時間の中に位置づけるのが有効であることを指摘し、今後、創設が期待されている小・中学校の特別支援教室 (仮称) にスヌーズレン・ルームを設置することで、軽度・中度発達障害のある子どもたちの心理面の安定等に寄与できることを提言している<sup>6)</sup>。

そこで、本稿では、スヌーズレンがレジャーの他に、セラピーや教育としての側面があるのかどうかを、スヌーズレンを先進的に取り入れて実践している英国の Special School 3 校を実際に調査することで、検証することを目的とする。

### 2 方 法

- (1) 調査期間：2005 年 4 月 22 日～26 日
- (2) 調査目的：各学校のスヌーズレンの捉え方や位置づけの調査
- (3) 調査方法：各学校長へのインタビュー調査とスヌーズレン施設の見学

(4) 各校の概要は、以下のとおりである。

① A校 (Dartford 州)

全校児童生徒数 165 名。在籍年齢 2 歳～19 歳まで。障害種別は、重度・重複障害児 32 名、自閉症児及び学習困難児 133 名。

② B校 (Berkshire 州)

全校児童生徒数 155 名。在籍年齢 2 歳～19 歳まで。障害種別は、重度・重複障害児 41 名、自閉症児 114 名。

③ C校 (Hampshire 州)

全校児童生徒数 74 名。在籍年齢 2 歳～19 歳まで。障害種別は、重度・重複障害児 16 名、学習困難児 58 名。

### 3 結果

各校での校長へのインタビュー調査の結果を表 1 にまとめて示した。また、各校のスヌーズレン・ルームなどの調査結果 (写真) を図 2～図 25 に示した。

#### (1) 校長へのインタビュー調査結果

- ① 各校とも、重度・重複障害児と自閉症児などが在籍していた (いわゆる知・肢併置校)。
- ② 各校とも、「ソフトプレイ・ルーム」と「ホワイト・ルーム」の 2 つを設置していた。自閉症児などは主に「ソフトプレイ・ルーム」を利用し、一方、重度・重複障害児は主に「ホワイト・ルーム」を利用していた。
- ③ 全児童生徒がスヌーズレンを利用しており、特に自閉症児のリラクゼーションのために利用されていた。
- ④ スヌーズレンの捉え方は、スヌーズレンの実践経験が十年以上の 2 校が「セラピーであり、かつ教育でもある」、一方比較的实践経験の浅い 1 校が「セラピーでも教育でもない」と捉えていた。
- ⑤ スヌーズレンの効果として、各校とも「リラクゼーション」、「相互交渉 (コミュニケーション) の促進」をあげていた。
- ⑥ 各校とも、IEP によるスヌーズレンの個別の目標の設定と計画が作成されていた。
- ⑦ 各校とも、スヌーズレンは LD、ADHD、アスペルガー症候群等の軽度発達障害児に対しても有効であると回答した。特に、ADHD の子どもにも有効であると回答した。

#### (2) スヌーズレン・ルーム等の調査結果

- ① A校では、広いソフトプレイ・ルームの中にスタジオのような照明器具が設置されていて (図 3)、行動を活性化させる音楽効果とともに、光効果も併用して、自閉症児のアクティブな行動を引

き出し、リラクゼーションを促していた。また、重度・重複障害児は、ホワイト・ルームで、バブルチューブやプロジェクターの映像を見ながらゆったりと楽しい時間を過ごしていた (図 8・図 9)。

- ② B校では、広いホワイト・ルームの中で、プロジェクターの映像や効果音、天井に散りばめられたスターライトなどの効果により、「みんなで宇宙空間をロケットで旅行をする」という設定で楽しい題材の授業が行われていた。この取り組みは、スヌーズレンを活用し発展させた、いわばわが国の「生活単元学習」に相当し、児童生徒の興味を大切にした生活教育 (児童生徒の生活に即した教育) として捉えられた。また、ソフトプレイ・ルームには、さまざまな触覚を楽しむ手作り教具が置いてあった (図 16・図 17)。

- ③ C校では、ホワイト・ルームに、バブルチューブやミラーボールなどの光刺激を中心に、リラクゼーションを促すミュージックが流れていた。また、肢体不自由を伴う重度・重複障害児がこのルームを利用できるように、リフトが設置されていた。一方、ホワイト・ルームのそばには、スヌーズレン・ガーデンがあり、季節の草木を觀賞することで、心なごむ時間が過ごせるようになっていた (図 24)。また、各教室でも、スヌーズレンが実施できるように、携帯用のバッグの中に小物のスヌーズレン・グッズが入っていた (図 25)。

### 4 考察

- (1) スヌーズレンはセラピーまたは教育といえるのか  
スヌーズレンの実践経験が比較的浅い A 校では、スヌーズレンを「セラピーでも教育でもない」と捉えていた。一方、スヌーズレンの実践経験が十年以上の B 校および C 校では、スヌーズレンを「セラピーであり、かつ教育でもある」と捉えていた。各校ともソフトプレイ・ルームとホワイト・ルームの両者を設置し同様の取り組みがなされていたが、スヌーズレンの捉え方には相違がみられた。

しかし、各校ともスヌーズレンの実践に際して、IEP (個別教育計画) を作成して個々の児童生徒のスヌーズレンの目標を設定し、指導にあたっていた。また、各校とも、スヌーズレンの効果として、自閉症児などの「リラクゼーションが図られたこと」、コミュニケーションにおける「相互交渉の促進が図られたこと」を指摘している。

各校の取り組みをみると、スヌーズレンは学校の教育活動の一環として位置づけられ、個々の児童生徒のスヌーズレンの目標が設定され、教育計画が立案され

ていること、スヌーズレンの効果として「リラクゼーション」や「相互交渉の促進」が図られたことをあげている。この目標設定と教育計画の立案に関しては、すでに英国の Ferguson, D. & Young, H. (2000) が著書をあらわしており、Objective sheet や Assessment sheet などを開発している<sup>8)</sup>。また、「リラクゼーション」効果については、姉崎 (2006) が重症心身障害児について SpO<sub>2</sub> と心拍数の解析からスヌーズレンにはリラクゼーション効果があることを科学的に明らかにしている<sup>9)</sup>。これらの結果を総合的に考え合わせると、スヌーズレンは本来「レジャーの他に、セラピーであり、かつ教育でもある」と結論づけられるといえる。

## (2) スヌーズレンの概念について

日本スヌーズレン協会 (2006) は、スヌーズレンを「治療方法や教育プログラムではない」と規定している<sup>7)</sup>が、その根拠を明確に示していない。またこのような否定的な表現を用いた概念規定は適切な表現とはいえない。スヌーズレンは、治療者や教師が一方的に効果を期待して行われるものではなく、スヌーズレンを相互に楽しむことを第一にしながら、結果としてリラクゼーションなどの効果が促されるものである。また「治療方法や教育プログラムではない」と規定しているが、スヌーズレンは本来レジャーとして楽しむだけではなく、セラピーや教育として、目標(評価)と計画をもって実施することが可能であり、ただその場を楽しめればそれで足りるというものではない。

むしろ、スヌーズレンは、レジャーとセラピーと教育の概念を広く統合した概念としてとらえることができる(図1参照)。ここにスヌーズレンの概念の独自性があると考えられる。スヌーズレンは、それを利用する者が相互に楽しくその時を過ごすレジャーであるばかりか、リラクゼーションや興味のある活動を促進させる効果が認められる<sup>5) 6)</sup>ことから、セラピーや教育としても明確に位置づけられると考える。スヌーズレンは、今日のストレス社会の中で、心に安らぎや楽しみを求めるすべての人々(家庭・学校・施設・病院の中など)のニーズを満たすオアシスであるといえよう。

また、LD や ADHD 等の軽度発達障害児に共通してみられる「落ちつきのなさ」や「対人関係構築の困難さ」を改善・克服するセラピーや教育の一手法としてスヌーズレンが有効であると考えられた。今後教育現場等での適用と研究が期待される。

## 5 今後の課題

第一に、今回の研究は3校のみの調査であった。今

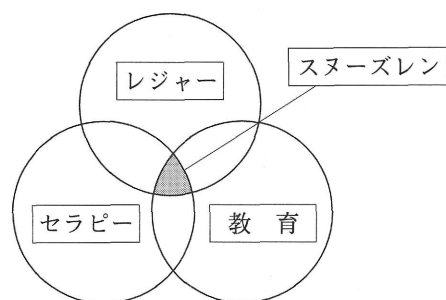


図1 スヌーズレンの概念図

後、スヌーズレンを実施しているより多くの Special School 等の学校を対象に調査を実施することで、さらに検証していく必要がある。

第二に、スヌーズレンは、LD や ADHD などの軽度発達障害児の情緒を安定させリラクゼーションを図る上で有効であるとのコメントをいただいた。今後、小学校などにも調査を実施してスヌーズレンが LD や ADHD などの子どもに実際有効であるかどうかを検証する必要がある。

なお、本研究は、科学研究費補助金(基盤研究C 課題番号 15530623 研究代表者 姉崎 弘)の援助を受けて実施された。

## 謝 辞

本研究の調査に快くご協力をいただいた Milestone School の Head Teacher, Eileen Flanagan 氏及び Deputy Head Teacher, Catherine Lewis 氏、Kennel Lane School の Head Teacher, Andrea de Bunsen 氏、さらに Limington House School の Head Teacher, Michele Smith 氏に、心から御礼を申し上げます。

## 参考文献・サイト

- 1) Hulsege, J. & Verheul, A. SNOEZELEN—another world—, ROMPA in the U.K. 1987.
- 2) 姉崎 弘. 最重度重症児に対するスヌーズレン療育の可能性について. 日本重症心身障害学会誌, 31(1), pp. 115—119, 2006.
- 3) Hutchinson, R. THE WHITTINGTON HALL SNOEZELEN PROJECT. North Derbyshire Health Authority, 1991.
- 4) Ashby, M., Lindsay, W., Picaithly, D., Broxholme, S. and Geelen, N. Snoezelen: its Effects on Concentration and Responsiveness in People with Profound Multiple Handicaps. British Journal of Occupational Therapy, 58(7), pp. 303—307, 1995.
- 5) 姉崎 弘. 英国における障害児者へのスヌーズレンの福祉実践—Worcester Snoezelen Center の取り組み—. 三重大学教育実践総合センター紀要, 24, pp. 121—126, 2004.
- 6) 姉崎 弘. 英国における障害児者へのスヌーズレンの福

社実践(Ⅱ)－Multi-Sensory Roomの今日的意義－. 三重大学教育実践総合センター紀要, 25, pp. 53-58, 2005.

7) <http://www.1.ocn.ne.jp/~snoezel/>

8) Ferguson, D. & Young, H. Exploring Multi-Sensory Rooms－A Practitioners Hands On Guide－. Spacekraft Limited, 2000.

9) 姉崎 弘. 重症心身障害児に対するスノーズレンのリラクゼーション効果について－SpO2と心拍数を指標として－. 日本重症心身障害学会誌, 31(1), pp 269-273, 2006.

10) School for Special Needs－A Complete Guide－GABBITAS, 2005.

表1 各校におけるスノーズレンの取り組み

調査項目	学校名 A校 (Dartford州)	B校 (Berkshire州)	C校 (Hampshire州)
①スノーズレンの利用について	全児童生徒 ・特に重度・重複障害児に実施 ・自閉症児のリラクゼーションのため	全児童生徒 ・自閉症児のリラクゼーションのため	全児童生徒
②スノーズレンの実践者	教師	教師	教師
③スノーズレンの1回の時間	45分	45分	45分(各クラス) 生徒1人15分
④スノーズレン・ルームの設置と各教室での利用	ソフトプレイ・ルームとホワイト・ルームの2つ	ソフトプレイ・ルームとホワイト・ルームの2つ	ソフトプレイ・ルームとホワイト・ルームの2つ 教室に携帯用の教具を置いてスノーズレンを実施
⑤スノーズレンの実践年数	2年	14年	13年
⑥スノーズレンはセラピーまたは教育ですか	セラピーでも教育でもない	セラピーであり、かつ教育でもある	セラピーであり、かつ教育でもある
⑦スノーズレンの効果について	・リラクゼーション ・身体知覚の促進 ・相互交渉の促進 ・楽しい時間を過ごす	・リラクゼーション ・相互交渉の促進	・視覚機能の活用 ・リラクゼーション ・スイッチ操作能力の向上 ・相互交渉の促進
⑧スノーズレンによる子どもの変容	・大人(教師)とより相互交渉が持てるようになった	・穏やかになり、リラックスできた	・集中力の向上 ・注視力の向上 ・リラックスできた
⑨スノーズレンの目標設定と評価	・教師がIEPの中で目標の設定と計画の立案をしていた	・教師がIEPの中で目標の設定と計画の立案をしていた	・教師がIEPの中で目標の設定と計画の立案をしていた
⑩スノーズレンはLD、ADHD、アスペルガー症候群等に有効か	・有効だと考える	・有効だと考える 特にADHD、アスペルガー症候群に対して有効である	・有効だと考える 特にADHDに対して有効である
⑪スノーズレンの活用場所	・レスパイト、病院にいる病気の子	・家庭、学校、病院、レスパイト	・家庭、学校、病院、レスパイト



図2 A校の校舎

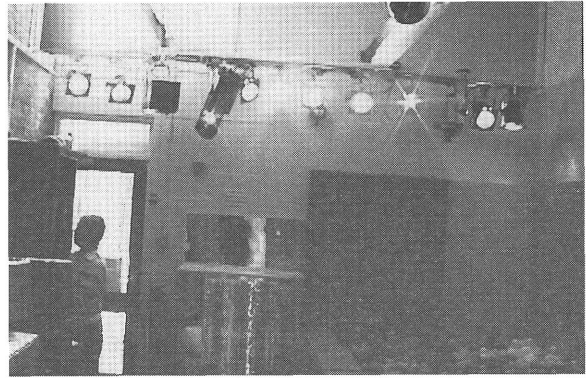


図3 ソフトプレイ・ルームの照明器具

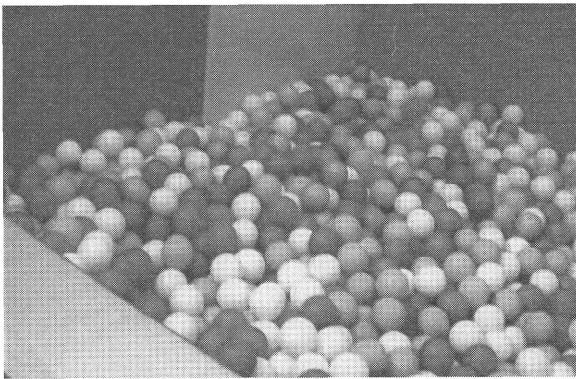


図4 ソフトプレイ・ルームのボールプール

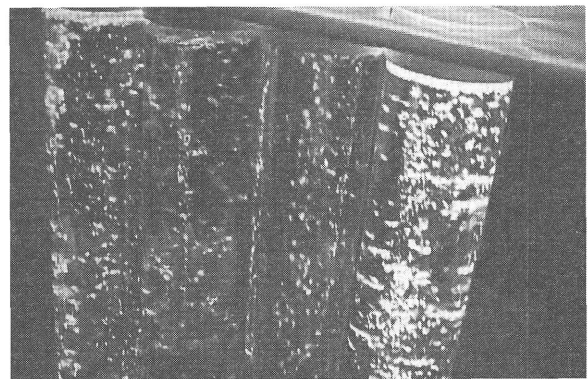


図5 ソフトプレイ・ルームのバブルチューブ



図6 ソフトプレイ・ルームの光効果



図7 ホワイト・ルームのタッチセンサー

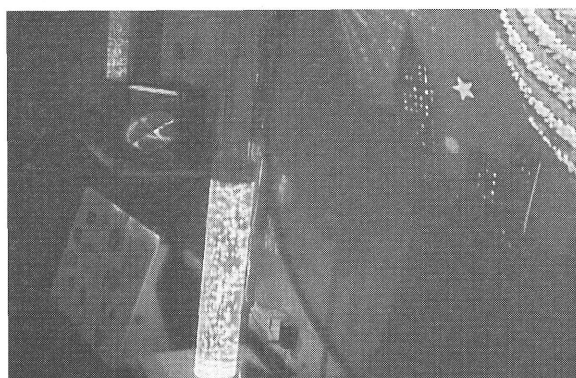


図8 ホワイト・ルームのバブルチューブ

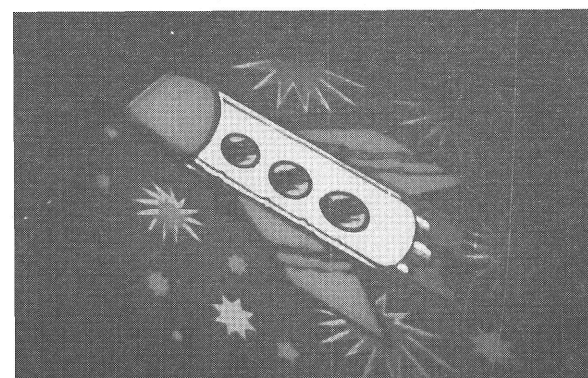


図9 ホワイト・ルームのプロジェクターの映像

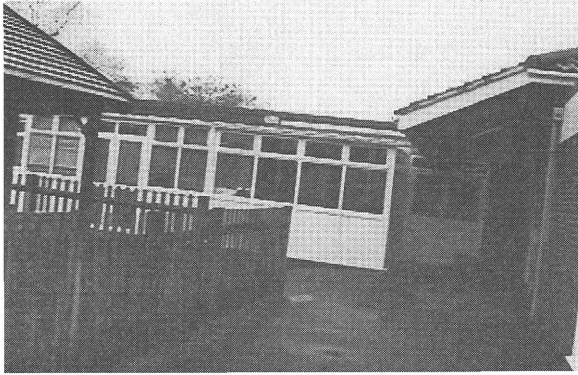


図 10 B 校の校舎

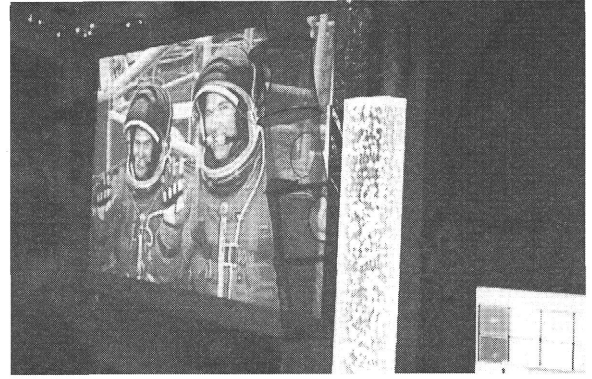


図 11 宇宙旅行を題材にしたスノーズレン

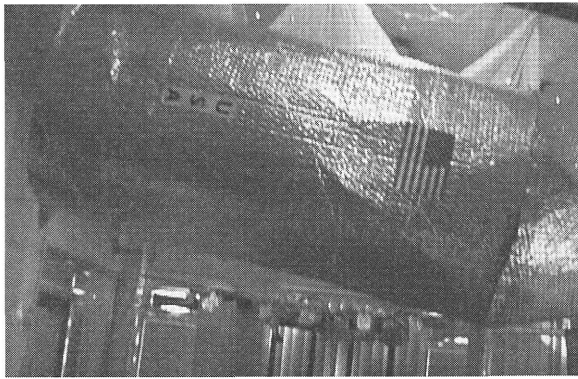


図 12 宇宙空間のロケット

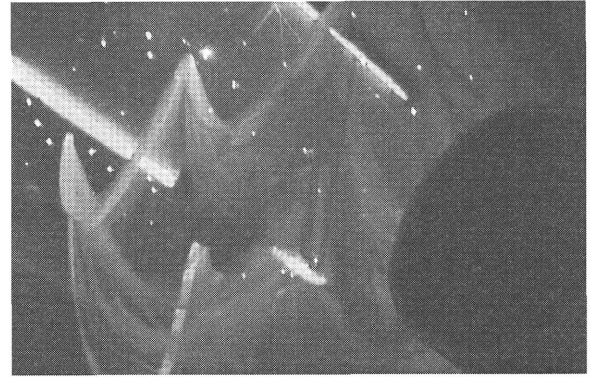


図 13 宇宙の星空

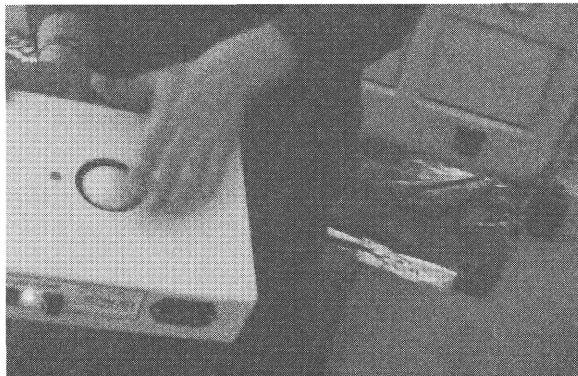


図 14 光効果のコントローラー

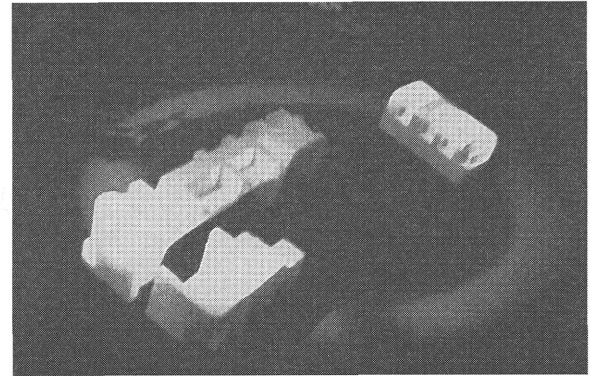


図 15 光効果

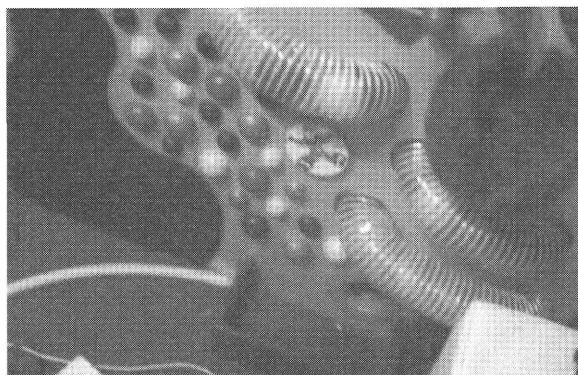


図 16 触覚を楽しむ教具(1)

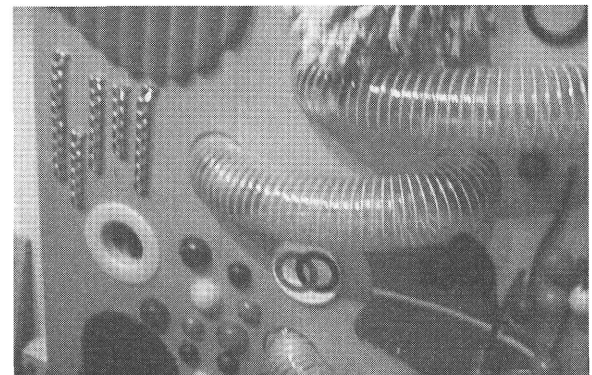


図 17 触覚を楽しむ教具(2)

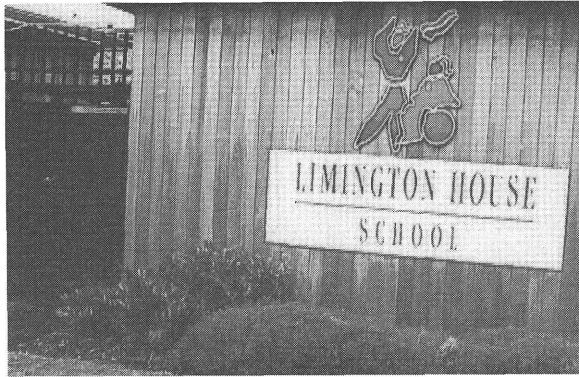


図 18 C 校の校舎

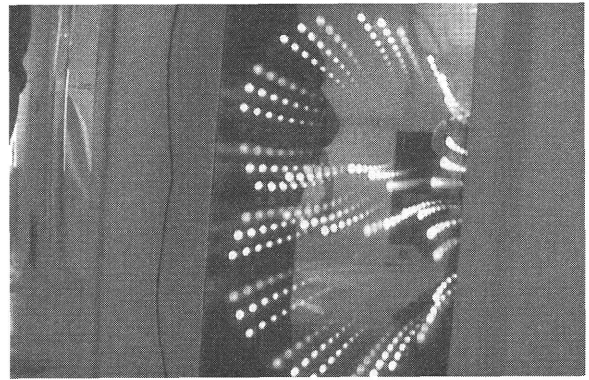


図 19 ホワイト・ルーム内のディープトンネル



図 20 バブルチューブのスイッチ

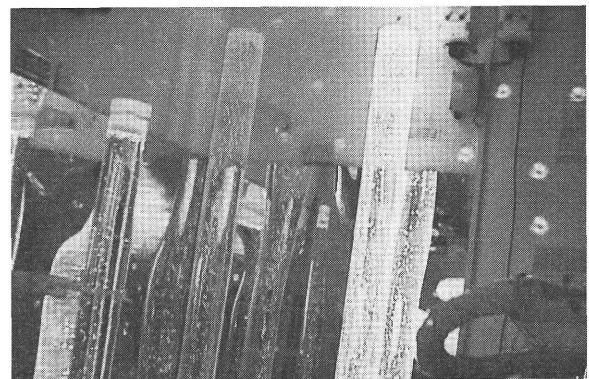


図 21 ホワイト・ルームのバブルチューブ

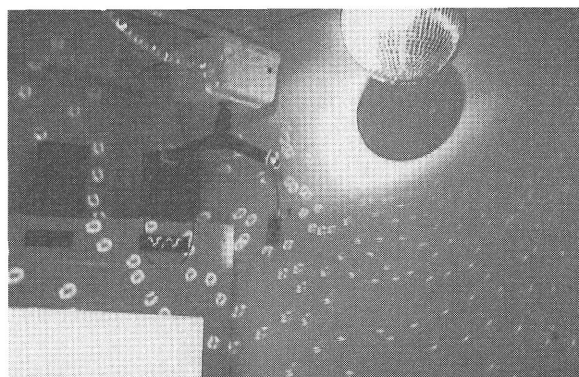


図 22 ホワイト・ルームのミラーボール

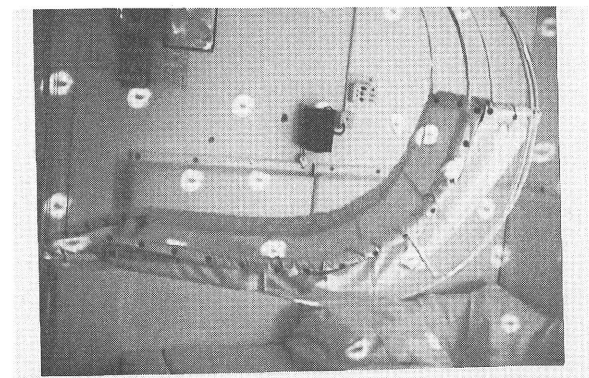


図 23 ホワイト・ルームのリーフチェア

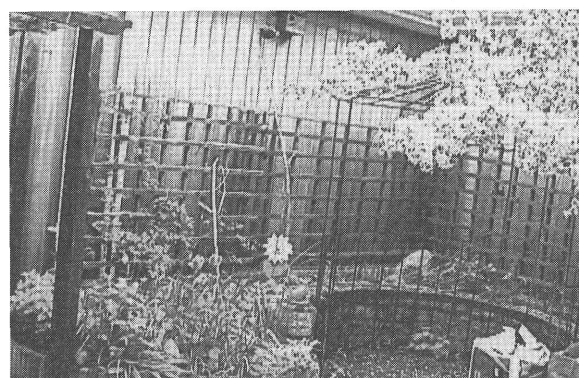


図 24 スノーズレン・ガーデン

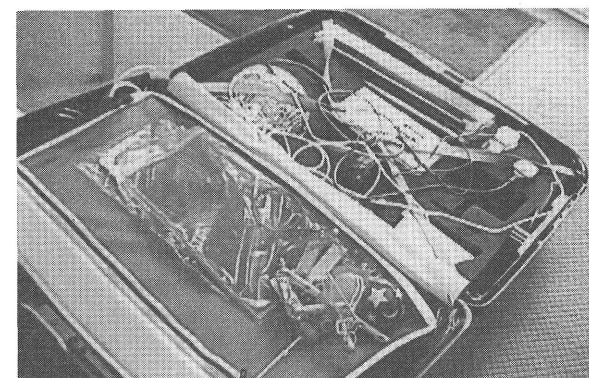


図 25 各教室に置いてあるスノーズレン・ゲッツ

